

# 担い手と新規就農者を応援します

会社員を辞め、故郷で家族とともに農業を営む田口勝教さん(雀柳)(写真左)と、秋田県が実施する新規就農に向けた研修を受講中の横澤泰志さん(新町)(写真右)にお話を伺いました。

**田口勝教さん(以下、田口)**…家族が農業を営んでいたもので、ゆくゆくは自分が後継者になるのだからという意識はありましたが実際は抵抗がありました。抵抗を感じながらも農業関係の学校に進学し、就職時にも「跡取り」の農業」という選択肢と直面しました。頭の片隅に農業がありながらも、一度は会社員として就職しました。

農業は基本的に家族経営です。自分の両親が一生懸命に力を合わせて農業をしている姿を小さい頃から見て育ってきました。農業は自分の両親がどんな仕事をしているのか、子どもに伝わる職業だと思っています。自分も会社勤めを経験し、夜中に最終電車で帰るような毎日を送り、ふと、「もしも自分が家庭を持った場合にどうなるのだろう」と考えました。「自分のお父さんは週末に寝てばかりいる人」と思われるのではないかと。農業は他の職業と比べても決して楽ではないけれど、家族の一体感を感じることができるところに良さがあるのかもしれない。独立した自分の姉妹も、帰省するたびに農作業を手伝ってくれます。家を離れても農繁期の大変さをずっと気に掛けてくれている。小さな頃からみんな揃って一緒に同じことを経験してきたからでしょう。家族の繋がりが稀薄になつているといわれる世の中で、貴重な絆なのではないかと思いました。そして、農業を営むからには地域と共に生きていくことになりました。水の確保や堰払いなどは地域の方々の協力なしには出来ません。地域との連帯感がある。いざ、何かが起こった場合

わらなければならぬ。農業をやってみたいと思った若者がいても、いきなり個人事業主になるしかないというのが現状です。  
**田口**…今、自分で農業をする機会を得られるのは、ほぼ後継者に限られます。全く新しく就農しようとしても土地を手に入れることができない。法律で定められているので仕方がないのかもしれないと横澤さん。横澤…土地を借りることは出来るけれど、借りることだって簡単ではありません。後ろ盾のない若者が参入するには門戸が狭く、分らないことが多いです。田口…就農したいと考えた若者が窓口で相談に行っても、数少ない農業法人に就職するか、起業するしかない現実を知って挫折して戻ってしまう場合が多いと聞いたことがあります。横澤…例えば農業法人に就職する面接を受ける前に、面接のため

にお互いに協力できる場所に良さがあるとも思います。  
**横澤泰志さん(以下、横澤)**…2年前に勤めていた会社を退社し、農業の世界に飛び込みました。以前から「いずれ農業をやってみよう」と思っていたのですが、たまたま覗いた首都圏の農業フェアで秋田県の農業研修制度を知り、利用してみようと思いました。大潟村で2カ月間の研修を受け、雇用研修先として紹介されたのが田口勝教さんのお宅です。来年の春には独立できることを目指し、現在様々なことを学んでいます。

京都府にいる両親が兼業農家だったので、もともと小さな頃から農業に触れる機会がありました。しかし、自分が成長するにつれて、高い農業機械を買いながら経営を行うような非合理性に疑問を抱くようになりました。その疑問が興味に変わったのが大学生のころ。その後、大学を卒業し、就職して一日中パソコンに向かい合う日々が続きました。そのうち、「農業への問題意識があるのに何故自分は毎日パソコンをいじっているのだろう」と違和感を覚え始めました。もともと物を作り出すような仕事をしたかったのに、現実は夜遅くまでパソコン操作ばかり。「自分は取引している相手の顔も知らないような仕事を一生続けていくのだろうか」と思いました。そして、自分の作っている物が分かる仕事をしてみたい、その方が面白いかもしれないと考えるようになりました。

農業の魅力は、自分が物作りの現場において、その物を見ることができ、何の農業研修を1週間受けなければならぬ例がありました。会社員から転職する場合を考えても、現在の仕事を休んで研修を受けるとするのは難しい人がいても最初につまづいてしまいうだと感じました。  
**田口**…仮にその農業法人に就職したとしても、その法人が起業をサポートしてくれば就農人口も増えるかもしれないが、現在はそういった法人はまだ多くはありません。

をやっているかを実感できるというところにあると思います。電話先の遠くの工場で作っている物をパソコンの管理表の中だけで動かしていることは違います。自分の仕事に自信を持つことができる。  
また、普通の会社員と違って裁量権が大きい。自分で決断して自分で行動できます。平たく言えば、頑張れば社長にだってなれる。自分の望む方法で仕事ができる場所に夢とやりがいを感じます。

**田口**…横澤さんの話にも通じますが収入に関することも重要です。収入は決して多くなく、楽に稼げる訳でもありません。でも、創造して計画すればある程度の収入を得ることはできる。自分が頑張れば、見合った収入を得ることができるかもしれない。もちろん自己責任になりますが、可能性の大きさに魅力があります。  
**横澤**…面白いのは、書類などに自分の職業を記入するとき。会社員や公務員などと違って、農業と記入しなければならぬことに特徴があると思います。**田口**…自分で、産産を起す。感覚です。少くとも今は会社員とは一線を画す職業ですが、これから何年か経ち、組織化が進めばまた違ってくるのかもしれない。サラリーマンとして農業に就職する時代になる可能性もある。今後、若者の就農を増やしたいならば就職情報紙などに求人情報を掲載できるような状況になれば変わってくると思います。

**横澤**…就職情報紙に掲載できるということは、様々な制度が整い、法律も変わると思います。雇うという土壌作りが必要だとすれば、既存の農家の意識改革も必要になってくる時代なのかもしれません。若者の新規就農には課題もあります。農業には他業種では味わえない良さがあります。子どもが将来になりたい職業として真っ先に挙げるような、そんな夢のある環境を、若い世代の農業者を含めたみんなで作ってあげたいと思っています。

## 政策 農林漁業振興対策基金事業

秋田県の農業夢プラン実現事業や新ビジネス展開支援事業などと協調して農業者を支援します。  
■助成対象者 認定農業者や農業生産法人など  
■助成額 事業費の2分の1以内

## 政策 農業生産法人育成事業

集落営農から農業法人化を目指す組織で、平成23年度内に設立準備の整った組織に設立経費の一部を助成します。  
■助成対象者 集落営農組織  
■助成額 1組織10万円以内

## 政策 無人ヘリオペレータ育成事業

無人ヘリオペレータの育成のため、受講料の一部を助成します。  
■助成対象者 無人ヘリオペレータ免許取得者  
■助成額 免許取得費の4分の1以内

# 若手農業者のパワーで美郷の農業に元気を

1月29日に美郷町で農業を営む若者の有志が集まり、「若手農業者の集い」を開催しました。活発な情報交換が行われた「若手農業者の集い」実行委員会の小西嘉之さん(関田)にお話を伺いました。

「当日は20歳代から30歳代までの農業者、約40名が参加してくれました。初めてお会いする方もいて、仲間作りのために良い機会だと思いました。色々な人の意見に触れることができ、刺激をもらいました。参加してくれた人に共通しているのは志が高く、「担い手である」という意識が強かったことです。こういう仲間が美郷町にいることを心強く思いました。専業農家が少なくなり、仲間が減りつつある中で新しいつながりを得ることのできた貴重な機会でした。お互いに相談し合い、アドバイス合いながらも、仲間の斬新な考え方に驚かされたりしています。『参加してみて良かった』という声もあったので、今後も程よい距離感で回を重ねていければと思っています。」

「当日は20歳代から30歳代までの農業者、約40名が参加してくれました。初めてお会いする方もいて、仲間作りのために良い機会だと思いました。色々な人の意見に触れることができ、刺激をもらいました。参加してくれた人に共通しているのは志が高く、「担い手である」という意識が強かったことです。こういう仲間が美郷町にいることを心強く思いました。専業農家が少なくなり、仲間が減りつつある中で新しいつながりを得ることのできた貴重な機会でした。お互いに相談し合い、アドバイス合いながらも、仲間の斬新な考え方に驚かされたりしています。『参加してみて良かった』という声もあったので、今後も程よい距離感で回を重ねていければと思っています。」